

〔科目名〕 経営導入演習				〔単位数〕 2 単位		〔科目区分〕 専門科目 演習	
〔担当者〕 王 聖書、紫関正博、長谷川直樹、藤沼 司、行本 雅		〔オフィス・アワー〕 時間:各教員から指示があります。 場所:各教員から指示があります。			〔授業の方法〕 講義および演習		
〔科目の概要〕 1 年次の春学期に、「経営学基礎論」、「会計学基礎論」を学習し、経営学、会計学の基礎を習得した学生の皆さんは、秋学期以降、経営学と会計学にさらに関心を持って学習を行う上で、経営学と会計学に関する幅広い専門領域の中から、今後どのように学習を行っていくのか、その道筋を考えていくことは重要です。 この演習では、「市場と戦略」、「人間と協働」、「会計と財務」という経営学科の 3 つの人材育成に応じた履修モデルの各分野の授業を担当する 5 名の教員が、各専門領域のテーマを踏まえて、講義あるいは演習を行います。それにより、受講する学生の皆さんが、経営学と会計学に関する各専門領域の入門あるいは導入部分を学習することで、経営学と会計学に対する学習意欲を一層高めてもらうことを主な目的としています。 本演習は、5 名の担当教員が、1 クラスにつき 3 回授業を行います。ローテーションを行うので、学生の皆さんは、3 回×5 名＝15 回の授業を受講します。5 名の教員が行う授業の順序は、経営導入演習のクラスごとに異なります。							
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 経営導入演習の各教員の授業内容は、2 年次以降の専門科目あるいは経営演習と関連しているところが多いことから、学生の皆さんが授業科目を選択し、今後の各自の履修モデルを考える上でも役立つものとなっています。また、経営導入演習の授業内容は、2 年次の春学期から始まる経営演習Ⅰの所属を決定する際の参考になると考えられます。							
〔科目の到達目標〕 経営導入演習で展開される各教員の専門領域の入門あるいは導入部分の授業を通じて、経営学と会計学の学習に必要とされる基本的な知識やスキルを習得することが目標です。また、学生の皆さんが主体的に履修モデルを考えること、さらには、経営演習Ⅰの所属を決定する際に、演習内容を十分に理解した上で決定することも、本演習の目標となります。							
〔ディプロマ・ポリシー (DP) との関係〕							
学部				学科			
DP1 ○	DP2	DP3	DP4	DP1 ○	DP2 ○	DP3 ○	
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 声が小さいというアンケートがありましたので、聞こえやすくするように心掛けます。							
〔教科書〕 各教員から指示があります。							
〔指定図書〕 各教員から指示があります。							
〔参考書〕 各教員から指示があります。							
〔前提科目〕 なし。							

〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 5名の教員が20点中の得点を付けて、その合計得点で評価する。 評価基準は、以下の合計得点による。 (評価基準) A 80点以上、B 70点～79点、C 60点～69点、D 50点～59点、F 50点未満	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業を通じて、経営学と会計学の専門領域の学習に対する各自の興味・関心をさらに高めてほしいと考えています。	
担当教員： 王 聖書	〔テーマ〕 経営管理に資する会計
	〔オフィス・アワー〕 授業内で案内する
	〔演習概要〕本演習の目的は、経営管理に資する会計のことをわかりやすく学んでもらうことです。第1回では、企業内部の意思決定や業績評価に用いられる「管理会計」の役割と特徴を紹介します。第2回では、ものづくりの現場に必要な「原価計算」の考え方を、具体的な例を交えて学びます。第3回では、AI・ESG・人的資本といった最新のトピックを通じて、会計が果たす新たな役割と将来の可能性を展望します。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各授業終了前に実施する小テスト。詳細は授業時に説明します。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 授業内で示す資料や参考文献について、積極的に学習することが望ましい。会計の勉強は数字を正しく計算するだけでなく、授業で紹介する資料やケースをもとに、計算の背後にあるビジネスプロセスの理解を目指していただきたい。
	〔実務経歴〕 なし
	〔教科書〕 配布資料
	〔その他〕
担当教員： 紫関 正博	〔テーマ〕 会計文書上の表示と企業の安全性・収益性に関する技法の習得
	〔オフィス・アワー〕 512 研究室。オフィス・アワーの日時は、初回の授業で提示する。
	〔演習概要〕会計文書に対する理解を深め、勘定式・報告式の貸借対照表と損益計算書の表示方法を学ぶ他、企業の安全性・収益性を分析する際の基本的な分析手法を習得することにより、財務諸表を読み解く上で必要な基礎を身に付けます。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 評価は、授業内に行う小課題とレポート課題による。評価の詳細は、経営導入演習の各クラスの初回の授業で説明します。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 2 年次以降の経営演習、会計関連科目を学習する上で必要となる会計の基本的な知識と技法を習得してもらいたいと考えています。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 なし。配布資料を使用する。
	〔その他〕 なし。

担当教員： 長谷川 直樹	〔テーマ〕 異文化マネジメントとリーダーシップ
	〔オフィス・アワー〕 501 研究室。詳細は初回授業で提示します。
	〔演習概要〕本演習の目的は、グローバリゼーションが実現した 90 年代半ば前後から台頭してきた異文化マネジメント論を文化の次元ごとに検討します。文化の次元を学習した後に、文化と関係が深いリーダーシップ理論を検討します。その内容は、経営組織論・行動科学・集団心理学などの学際的な実証研究を基にして、さまざまな理論とその応用可能性を検討します。受講学生は、経営活動に存在する文化差の重要性を理解し内容を説明できるようになる。そのうえで、どのようなリーダーシップを発揮する必要があるのかを考える機会を与える。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 毎回のレポート課題(3 回)を 20 点満点で評価します。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 学生が主体となり、議論による相互学習のアクティブラーニング LTD 授業方法で進める。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 教員作成のレジュメを使用します。
	〔その他〕
担当教員： 藤沼 司	〔テーマ〕 組織と人間協働
	〔オフィス・アワー〕 603 研究室。詳細については、初回の授業時に指示します。
	〔演習概要〕企業や NPO に代表されるような様々な人間協働の成立・存続・発展のためには、組織の存在を抜きにして語ることはできません。組織の維持・発展を通じて、協働の発展と個人の発展との両立を目指すことが、マネジメントの基本問題です。 こうした課題を果たすために必要な経営者・管理者の仕事とは何か、その基本を学びます。そのうえで、入学後これまでの授業で学んできた知識を活用して、ケースを通じたディスカッション中心に演習(ゼミ)形式で授業を進めます。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・3 回授業を 20 点満点で評価 ・出席 6 点(1 回あたり 2 点)、レポート 14 点(レポート 1 回あたり 7 点)
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 単なる「出席」ではなく、積極的「参加」を。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 教員作成レジュメ。
	〔その他〕【進め方】 第 1 回はもっぱら講義形式で進め、マネジメントの仕事(職能)の基本を確認します。授業の最後にケース①を配付するので、第 2 回の授業前にケース①の設問に対するレポート①を作成のうえ、第 2 回授業に持参してください。 第 2 回授業はケース①を活用し、これまでに学んできた知識を総動員して、みなさんには自由にディスカッションしてもらい、演習(ゼミ)の醍醐味を経験してもらいます。授業の

	最後にレポート①を回収するとともに、ケース②を配付します。第 3 回授業前に、ケース②の設問に対するレポート②を作成のうえ、第 3 回授業に持参してください。 第 3 回授業も第 2 回授業と同様に、ケース②を活用して、みなさんには自由にディスカッションしてもらい、演習(ゼミ)の醍醐味を経験してもらいます。授業の最後にレポート②を回収します。
担当教員： 行本 雅	〔テーマ〕 社会データ入門
	〔オフィス・アワー〕 授業時にお知らせします。
	〔演習概要〕 企業が経営方針や目標を決定する上で、自らの直面している市場の環境や社会の状況を把握することは基本となります。たとえば、市場が将来成長する見込みがあるかどうかによって経営方針は変わってきますし、市場の需要を予測できなければ適切な売上目標を設定することもできません。このために、企業ではさまざまなデータを集めて、その分析結果に基づいて経営戦略を立てています。近年では、そのための基本的な技術として、さまざまなデータの可視化が広く使われるようになってきています。本講義では、こうした社会データとそれをあつかうための初歩的な知識を、実際に PC でデータの可視化をしながら学びます。
	〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業時の課題で評価します。詳細は授業時に説明します。
	〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業では PC を使って課題をこなしてもらいます。最初は、つまづきながらも自分で手を動かしてやってみないと身につかないので、とにかく自分でやってみるようにしましょう。
	〔実務経歴〕 該当なし。
	〔教科書〕 使用しません。
	〔その他〕